

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム敬史館 ひまわり
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市本名町494番地
記入者名 (管理者)	地福 いつ子
記入日	平成 21年 12月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	利用者様本位のサービスを心掛け、家庭的な雰囲気大切に、家族と利用者様が地域の中で安心して生活できるように支援する事を理念として掲げている。		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	毎日理念を唱和し、毎月の全体ミーティング等で具体的に話し合いをもうけ、日々のケアサービスに取り組んでいる。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	毎月発行の施設新聞への記載を始め、地域配布の施設便りにも同様の記載をしている。また、施設内にて掲示、家族会・運営推進会議にて発表している。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	町内会に加入している。回覧板を回覧する事で町内会の行事等へ参加し積極的に挨拶を行っている、また、町内会の皆さまと気軽に話せる雰囲気作りに努めている。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	地域サロン・福祉フェスタ・文化祭等、地域の催しに参加している。ボランティア活動も、例年同様に活発に受け入れ、地域の人達との交流に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域新聞発行(公民館長承諾)の配布と、利用者様と一緒に、地域のゴミ拾い等を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は掲示し会議等にて報告及び改善に生かしている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している、内容について施設内外研修報告や地域との連携(ネットワーク)を通じた取り組みについて議論している。又構成委員の方を中心にした認知症の人の立場になった思いや考え等、職員と一緒に勉強会を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の相談所へは訪問を行っており必要に応じて電話にて相談している。また運営推進会議には包括支援センターの方に参加を頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内外研修を通じ権利擁護・身体拘束等に関する研修会に参加している。ホームにおいても研修会を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないと職員全体認識あり、言葉使いのにも注意を払っている。またストレス解消のため、定期的に懇談会実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の個々に応じた研修への参加を促し、全体ミーティング等で研修報告書の提出や発表を実施している。各職員に専門的知識を身につけられるように職員の育成に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会通じの交流会、または、吉田地区グループホームとの交流会の実施を行っている。また同事業所との相互訪問(見学会)を随時行う事でホームに必要な情報(見学に対し良い点、改善点等)を見学者に記入してもらい改善ならびに、質の向上につなげている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な親睦会の実施。また有給取得の活用と個人面談の実施を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	福利厚生も充実しており、又法人内の託児所も設置し子育て支援に努めている。又年2回の健康診断を実施、全職員の健康管理に気を配り、把握に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所事前説明の時点で、入所に向けて利用者様・家族と利用にあたっての密の連携を行う事で利用にあたっての不安や戸惑い等の把握に努め安心して利用できるよう体制作りに入力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話や見学時・面会時カンファレンス時に不安等を受容しており、困難な事例においては全体ミーティング時検討を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態・状況の把握に努め、必要に応じた支援の見極めをカンファレンス、面会時に行っている。(他科受診等)又全体ミーティング等を利用し検討会を行っている。又、必要時老健・地域包括支援センターに相談、援助頂いている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用事前に、本人様の馴染みの物や使用されていた物、大事にしていた物等を自室に設置する事で、利用にあたって不安改善に努め自宅で生活されていた時と同じような家庭的な雰囲気作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑の野菜作りや漬物作り、食事の片付け等を職員と一緒にやり、一人一人の残存機能を活かした役割を持たれる事で生活への生きがい作りを行っている。又信頼関係作りへの取り組みについて各担当スタッフが本人の状態を把握することに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を頻回にしてもらい、面会時に家族と一緒に利用者様とコミュニケーションを図り、利用者様の事を支援する工夫を行って行く努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様の状況・状態を把握し、理念に基づき家族と過ごす場の提供(ドライブ、外出)を家族に連絡して積極的に参加を促している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な外出の声掛け(墓参り、ふるさと訪問)を行う事で、ご家族、又は親戚の方との触れあう時間を持っていただくように支援している。ホーム来設にも面会時間を夜21時までといつでも来て頂けるように工夫している。プライベートへの配慮は全個室にて来設も自由に過ごす事が出来ている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やレクリエーション等を通じて、利用者間でのコミュニケーションの場を多く提供している。意思疎通が困難な方に関してもスタッフが介入などの配慮を行い、誰とでもコミュニケーションを図れるように努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設病院や他事業所・他病院への入院・入所されても、面会や家族と連絡を行い、情報交換に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の食事やレクリエーションの中で、利用者様とのコミュニケーションを図り、定期的に嗜好調査やケアカンファレンスを実施し、全体ミーティングやケース検討会の中で、利用者様の意見、思い、要望等を把握し、各職員や家族で支援する体制作りに努めていく。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所事前に、家族へセンター方式等の書類や面会時に情報収集し、利用者様の生活歴・性格・状態把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを大切に、その時の状態や状況に合わせた働きかけ(ラジオ体操、レクリエーション)を行っている。参加も自由であり体調に合わせて声掛けを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様を中心として、家族の意見を盛り込み定期的なケアカンファレンスやケース検討会を実施し、各スタッフの意見やアイデアを反映出来るように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始時には、暫定ケアプランを作成し、初期カンファレンス後に介護計画書作成している。見直しが必要な時点で、サービス担当者会議を実施し、状態や状況に応じた新たな介護計画をスタッフ全員で検討し、作成していくように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や申し送りノートを活用し、ケース検討会、全体ミーティング等にて情報の共有化を図り、実践や介護計画の見直しに反映出来るように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じられるように、利用者様や家族・各スタッフと連携を図れるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々の定期的なボランティア活動の参加を呼び掛けている。又利用者様の方々が安心出来る生活を送れるように、防災訓練時は、消防署や業者の方々に協力体制が取れるように努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護ステーションとの連携や併設病院へのリハビリテーションへの参加等、他のサービス利用も支援している。又訪問利用として協力歯科や訪問カット等の利用にも支援に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にも積極的に参加していただき、情報交換や困難な事例についても、支援・相談できる体制作りが出来ている。権利擁護についても研修会に参加している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が毎週月曜日に来訪し状態報告を行っている。又状況に応じて受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルを活用し全体ミーティング等で接遇面について、随時勉強会を実施し、全スタッフへ意識統一、向上に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフ中心のケアにならないように、受容と傾聴する姿勢をもってケアを行っている。また、意志表示が困難な方や難聴の方へは、ジェスチャーや筆談等を活用しながら支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出・外泊等は、本人又は家族と協力し支援している。買い物(週2回)個別はいつでも行ける体制を作っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔馴染みの理髪店がある方は、家族の協力を頂き、希望される理髪店にて、カットやパーマをされている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に利用者様への食事アンケートを実施し、本人の好みや嫌いな物を知り、食事前後の作業をたのしみ状況作りに努め、提供していく時。又体調面を考慮しながら、茶碗洗いや片づけ等を手伝ってもらいながら、残存機能を活かせるように努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人様が望む好みの物をスタッフが管理しながら、楽しめるように支援する。(タバコ・飲み物・お酒等)	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、声かけやトイレ誘導を実施し、パットへの失禁防止に努めている。又夜間においては、各利用者様の残存機能に応じて、ポータブルトイレでの排泄の支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴への支援は毎日実施しており、利用者様の希望に沿って入浴して頂いているが、意志疎通困難な利用者様には、入浴チェック表を活用し、定期的に入浴の実施している。又体調不良者や拒否された方については、強制はせず清拭・足浴等を行い、清潔保持に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の体調に応じて、自由参加で体操等の運動を取り入れ、一日の流れの中で、必要な休息が取れるように配慮している。又天候が良い日には、寝具等を天日干しを行い、夜間の安眠を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日が楽しく過ごせるように、一人一人の残存機能に応じた役割を見つけ、楽しみ方を工夫している。役割として、家事手伝いや洗濯物たたみや洗濯物干し等を依頼し、必要に応じて援助を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームへ販売員(ヤクルト等)が来られ、本人が希望される物を購入出来るように支援する。又買い物の機会を定期的にもうけ、スタッフ付き添いの元、本人の希望する金額を提供し、自己判断にて希望する物を購入して頂くように努める。金銭管理が出来る利用者様には、家族の協力を得ながら、使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力を得て、定期的な外出の機会をもうけ、近辺のレストランへ外食やお店への買い物等が出来るように支援している。又天候を見ながら短時間の散歩やドライブを実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族への声かけを行い、ふるさと訪問等を実施している。ホームでも、季節に応じて野外活動や外出の機会をもうけている。又個別にて入居者買い物を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に沿って、いつでも電話出来るようにしている。意志疎通困難な方には、御家族へ依頼し、面会をお願いしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は特に決まっておらず、都合のよい時間に面会が出来るように面会室を設置し、ゆったり過ぎて頂けるようお茶等を提供している。又面会者へは明るい挨拶を心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束委員会の実施にて、勉強会・研修会を行い全体ミーティングにて全職員へ伝達・報告し、意識向上に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は、いつでも出入り出来るように施錠はせず、利用者様が外に出掛けられる際は、声かけを行い一緒に付き添い、安全面確保をし、見守りを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく利用者様と接する時間をもうけ、所在確認を行い常にプライバシーの配慮をしながら見守りを行う。夜間は1時間毎の巡視を実施し、必要時にはセンサー設置し、安全面の強化を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬や危険物に関しては、保管に気を配り、台所等の包丁や洗剤は作業が終了したら、後始末をしっかり出来るように全スタッフに全体ミーティング等で伝達を行い、意識付けを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月のリスク委員会での研修会や職員看護師による勉強会を実施し、全職員へ伝達・報告を行う。又気付きシートを利用し、早期対応に努めている。事故発生時には、職員看護師や主治医と連携し、対応策の検討を行う又、管理者・主任・介護支援専門員より、家族へ早急に連絡している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホーム看護師による勉強会や緊急時マニュアル作成を行い、緊急時や夜間急変時の併設病院への連絡又、対応方法を掲示し早期対応出来るように努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回、避難訓練・消火訓練を実施している。又年2回夜間想定避難訓練・通報訓練等を行い、協力病院または、老健施設へ参加協力の体制作りを努めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々の状態把握に努め、御家族の面会時や担当者会議等にて状態の説明をして、リスクへの可能性を理解して頂くように努め、ケース検討会や委員会にて対応策の検討・評価を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや食事・レクリエーション時等、利用者様と携わる機会の時は、一人一人の日常の様子や表情の変化状態把握に努め、状態変化時は早急に対応を行い、必要時には病院受診を行っている。又必要に応じて御家族へ連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬の目的や副作用等については、必ず主治医や薬局より説明もしくは説明書をもらい、各利用者のケース録に管理し、職員がすぐに確認、内容等の把握出来るように努めている。服薬時は、必ず手の平・口の中に介助を行い確実に服用して頂けるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェック表を元に一人一人の排便状態の把握に努め、水分補給や調理では野菜を多く取り入れ食事の工夫を行っている。又体操や散歩等の運動機能の工夫も取り入れている。下剤や浣腸・座薬使用されている方には、個々の状態に合わせて使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを利用者様と一緒にを行い、口腔内のチェックを行っている。自己にて実施出来ない方には介助を行っている。又夜間の口腔ケア後は、義歯を預かり、ポリドントを使用し、消臭・衛生保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給チェック表を使用し、利用者様の食事摂取状況や嚥下状態の把握に努め、状況に応じて利用者様が食べやすいように食事形態を変える。又年2回の嗜好調査を実施し、状況に応じた食事の提供に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	定期的な勉強会（老健施設の研修会に参加）を実施し、スタッフの意識向上に努めている。又利用者様については、家族の同意の元でインフルエンザ予防接種を実施している、感染予防の為にスタッフも一緒に実施している。3カ月に1回全職員の検便も実施し、感染症予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	行政の高齢者に関する給食勉強会へ参加している。スタッフ一人一人へ食中毒防止の意識を持つように努めている。又食材は必ず火を通して調理し、まな板や包丁・食器類は乾燥機を使用し、熱消毒を行っている。冷蔵庫内の食材の賞味期限を確認し、安心・安全の確保に努め手洗い・うがいの徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	正面入り口のドアは、常時開放し、手作りの表札を掲げている。又両ユニットの玄関入り口にも手作りの表札や利用者作品を展示している。又ゆったりできるように木製のベンチや椅子を設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事はゆっくりと落ち着いてとっていただけるように音などに配慮している。。昼食後は、思い思いの場所でくつろげるように支援を行っている居室へ戻られて昼寝をされる方には、強い光がはいらないようにカーテン等の環境整備を工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人が思い思いに過せる生活環境を提供している。廊下には、利用者様同士が座り談笑出来る長椅子を設置し、又談話室にはソファを置き利用者様同士がくつろげる場所を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好きな植物を置いたり、家族の写真や自分達が作った飾り物等を居室に設置する事で、利用者様の安心・安住の出来る生活の場を提供する工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	両ユニットの談話室、玄関内には空気清浄器が設置している。毎朝を行っている。また個々の利用者様に合わせて、家族の協力の元、消臭剤や空気清浄器を使用し、悪臭防止に努めている。シーツ類の洗濯や布団干し等は定期的の実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっており、廊下の左右トイレには手すり等が設置している。車椅子利用の方について、扉の開閉が困難な方が多い為、長めののれん等を設置し、本人の機能を活かした環境作りに努めている。又車椅子の利用者に対しては、スタッフが誘導している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様一人一人の居室の入り口にはネームプレートを取り付け、又トイレやお風呂場には、場所を示すプレートを設置している。各個人のタンスに、文字が見やすいように品目の名前を書き、利用者様の残存能力を活かし、自分で衣類等の整理整頓ができるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に長椅子を設置し、玄関前にはプランターに季節毎に花を植え変えを行い、日常的に楽しめるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家族との協力体制・連携に取り組んでいる。
- ・防災については、年2回夜間を想定した避難訓練・通報訓練を実施している。(2ヶ月に1回は、消火訓練・避難訓練を実施している)又、近隣の住民へ防災訓練の参加を呼び掛けている。
- ・個々のレベルに応じた研修を実施し、相対的なレベル向上を図っている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム敬史館 なでしこ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市本名町494番地
記入者名 (管理者)	地福 いつ子
記入日	平成 21年 12月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	利用者様本位のサービスを心掛け、家庭的な雰囲気を大切にし、家族と利用者様が地域の中で安心して生活できるように支援する事を理念として掲げている。		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	毎日の申し送りへの唱和を行って意識統一を図っている。基本理念を掲げスタッフの介護における共有目標にもなっている。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	毎月の新聞を地域向けにアレンジし定期的に発行している。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	地域住民の方のアドバイスを頂きながら畑作りを行うっている、又旬の食材などを提供いただいたりと地域の方との触れ合う機会は出来ている。地域音楽会「夢ふうせん」への見学会をしている。又入居者様見学希望にも随時対応している。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	地域行事への積極的な参加を行い、ホームとの連携又はネットワークづくりに取り組んでいる。ネットワークづくりに関し、情報の共有として情報開示、又はケア加算についても話し合いを行う連携が確立されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域行事等に対し、事業所としてスタッフが設営に参加協力を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価委員会を設置している、全スタッフが評価の意味を理解し評価を行っている。また、委員会を中心に検討しスタッフミーティングにて報告等を行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している、内容について施設内外研修報告や地域との連携(ネットワーク)を通じた取り組みについて議論している。又構成委員の方を中心にした認知症の人の立場になった思いや考え等、職員と一緒に勉強会を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者との行き来する機会が少なく、取り組みが出来ていない。今後は、事業所の実情、ケアの取り組み状況等、交流の場を作っていけるように努めていきたい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・身体拘束等に関する研修会を実施している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設は、虐待防止マニュアルを委員会を中心に研修会を開催し、施設内の虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に対し各担当の認識者が中心に全体ミーティングを利用した取り組みを行っている。 研修委員会を中心に必要な情報、対応マニュアルの作成を行いミーティング等を利用し研修を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、地区の定例会に参加して、他事業所間との情報交換やネットワーク作りに努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフのストレス改善に対し、業務の状況、状態に応じた休憩の確保を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	福利厚生の充実により、スタッフは無理することなく業務にあたる事が出来ている。必要な時に休日が取れる体制が出来ている事でストレス軽減になっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事業所は随時相談受付を行っている。又スタッフは利用者様の状況、状態を把握する事で、早めの気づきや、必要に応じた取り組みを行っている。担当受付(管理者・介護支援専門員)	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	3か月毎のカンファレンスを行っている。また面会の際に、ご家族と密に連絡連携を行う事で悩みや困っていること等の把握に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に、必要としている支援を見極めていく努力に務めている。又各担当者や介護支援専門と連携し、ケア・カンファレンス等を実施し、検討・評価に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様の置かれている状況に応じた取り組み(レクリエーションへの参加)を行っている。又馴染みの関係作りに力を入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす時間を多く持ち、利用者様から学ぶ事を忘れずに信頼関係を構築できるように努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を頻回にしてもらい、面会時に家族と一緒に利用者様とコミュニケーションを図り、利用者様の事を支援する工夫を行っていく努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的なケアカンファレンスや面会時、又外出の機会をもうけ利用者様と家族のよりよい関係が築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会時等、馴染みの方が来所された時は、ゆっくりくつろぐ事が出来るように、場所の提供やお茶を汲む等の支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	誕生会等について、誕生者を全ユニットでお祝いを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設病院や他事業所・他病院への入院・入所されても、面会や家族と連絡を行い、情報交換に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の食事やレクリエーションの中で、利用者様とのコミュニケーションを図り、定期的に嗜好調査やケアカンファレンスを実施し、全体ミーティングやケース検討会の中で、利用者様の意見、思い、要望等を把握し、各職員や家族で支援する体制作りに努めていく。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所事前に、家族へセンター方式等の書類や面会時に情報収集し、利用者様の生活歴・性格・状態把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムに合わせて、朝のバイタルや食事・排泄の状態を観察し、その日の体調の変化等を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様を中心として、家族の意見を盛り込み定期的なケアカンファレンスやケース検討会を実施し、各スタッフの意見やアイデアを反映出来るように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービスの見直しを各担当者が介護計画に基づいた評価を行っている。状態や状況に応じケース検討を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や申し送りノートを活用し、ケース検討会、全体ミーティング等にて情報の共有化を図り、実践や介護計画の見直しに反映出来るように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護面についても併設病院との連携により、状態の急変時にも対応できるようにしている。ホーム看護師・訪問看護師を中心に日々の利用者様の把握に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々の定期的なボランティア活動の参加を呼び掛けている。又利用者様の方々が安心出来る生活を送れるように、防災訓練時は、消防署や業者の方々に協力体制が取れるように努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護ステーションとの連携や併設病院へのリハビリテーションへの参加等、他のサービス利用も支援している。又訪問利用として協力歯科や訪問カット等の利用にも支援に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にも積極的に参加していただき、情報交換や困難な事例についても、支援・相談できる体制作りが出来ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設受診以外にも、利用者様や、ご家族の希望の場合は、利用者様を家族へ相談し、協力を頂き他科受診をおこなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルを活用し全体ミーティング等で接遇面について、随時勉強会を実施し、全スタッフへ意識統一、向上に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフ中心のケアにならないように、受容と傾聴する姿勢をもってケアを行っている。また、意志表示が困難な方や難聴の方へは、ジェスチャーや筆談等を活用しながら支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他者とのコミュニケーションを図れる場の提供を始め、自己選択や自己決定できるように配慮しその人らしい生活が送れるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝、残存機能を活かし、自室にて身だしなみ(化粧)を出来るように支援している。その日の天候や気分に応じた洋服の決定も同時に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に利用者様への食事アンケートを実施し、本人の好みや嫌いな物を知り、食事前後の作業をたのしみ状況作りに努め、提供していく時。又体調面を考慮しながら、茶碗洗いや片づけ等を手伝ってもらいながら、残存機能を活かせるように努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様の既往歴の把握に努め、昔からの習慣を活かした取り組み(夕食時お酒の提供)を行っている。又、寝る前の養命酒、排便困難な場合黒酢ドリンクの提供も行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	オムツでの対応をなくし、人間らしい生活の支援として残存機能を活かし、トイレ排泄を定期的に行い必要に応じてポータブルトイレ等の活用する事で自尊心をそこなわない働きかけを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴への支援は毎日実施しており、利用者様の希望に沿って入浴して頂いているが、意志疎通困難な利用者様には、入浴チェック表を活用し、定期的に入浴の実施している。又体調不良者や拒否された方については、強制はせず清拭・足浴等を行い、清潔保持に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者により、寝る前の養命酒の提供やホットミルクなどを提供し安心して眠れる体制作りを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の新聞取りやスタッフ同伴のゴミ出し、又玄関口の清掃などその日の状態や気分に応じ行っている。 入浴後の洗濯干しや洗濯たたみ等を状況に応じ実施して頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームへ販売員(ヤクルト等)が来られ、本人が希望される物を購入出来るように支援する。又買い物の機会を定期的にもうけ、スタッフ付き添いの元、本人の希望する金額を提供し、自己判断にて希望する物を購入して頂くように努める。金銭管理が出来る利用者様には、家族の協力を得ながら、使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力を得て、定期的な外出の機会をもうけ、近辺のレストランへ外食やお店への買い物等が出来るように支援している。又天候を見ながら短時間の散歩やドライブを実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族への声かけを行い、ふるさと訪問等を実施している。 ホームでも、季節に応じて野外活動や外出の機会をもうけている。又個別にて入居者買い物を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に沿って、いつでも電話出来るようにしている。意志疎通困難な方には、御家族へ依頼し、面会をお願いしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は特に決まっておらず、都合のよい時間に面会が出来るように面会室を設置し、ゆったり過ぎて頂けるようにお茶等を提供している。又面会者へは明るい挨拶を心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束委員会の実施にて、勉強会・研修会を行い全体ミーティングにて全職員へ伝達・報告し、意識向上に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は、いつでも出入り出来るように施錠はせず、利用者様が外に出掛けられる際は、声かけを行い一緒に付き添い、安全面確保をし、見守りをを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく利用者様と接する時間をもうけ、所在確認を行い常にプライバシーの配慮をしながら見守りを行う。夜間は1時間毎の巡視を実施し、必要時にはセンサー設置し、安全面の強化を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬や危険物に関しては、保管に気を配り、台所等の包丁や洗剤は作業が終了したら、後始末をしっかりと出来るように全スタッフに全体ミーティング等で伝達を行い、意識付けを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の生活スペースへの気配り(邪魔なものの除去)をスタッフは心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	本年度よりAEDの設置を行い、緊急時の対応を研修を通じ行っている。スタッフは利用者様一人一人の状態を把握し早目の対応に努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を活用し地域の方への協力体制を行っている。緊急時併設病院、施設からの協力も確保されている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスク発生時においても早急にご家族に連絡している。又必要時併設病院受診も行っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや食事・レクリエーション時等、利用者様と携わる機会の時は、一人一人の日常の様子や表情の変化状態把握に努め、状態変化時は早急に対応を行い、必要時には病院受診を行っている。又必要に応じて御家族へ連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬の目的や副作用等については、必ず主治医や薬局より説明もしくは説明書をもらい、各利用者のケース録に管理し、職員がすぐに確認、内容等の把握出来るように努めている。服薬時は、必ず手の平・口の中に介助を行い確実に服用して頂けるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェック表を元に一人一人の排便状態の把握に努め、水分補給や調理では野菜を多く取り入れ食事の工夫を行っている。又体操や散歩等の運動機能の工夫も取り入れている。下剤や浣腸・座薬使用されている方には、個々の状態に合わせて使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを利用者様と一緒にを行い、口腔内のチェックを行っている。自己にて実施出来ない方には介助を行っている。又夜間の口腔ケア後は、義歯を預かり、ポリドントを使用し、消臭・衛生保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給チェック表を使用し、利用者様の食事摂取状況や嚥下状態の把握に努め、状況に応じて利用者様が食べやすいように食事形態を変える。又年2回の嗜好調査を実施し、状況に応じた食事の提供に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	定期的な勉強会を実施し、スタッフの意識向上に努めている。又利用者様については、家族の同意の元でインフルエンザ予防接種を実施している、感染予防の為スタッフも一緒に実施している。3カ月に1回全職員の検便も実施し、感染症予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関する勉強会を実施し、スタッフ一人一人へ食中毒防止の意識を持つように努めている。心掛けている。又食材は必ず火を通して調理し、まな板や包丁・食器類は乾燥機を使用し、熱消毒を行っている。冷蔵庫内の食材の賞味期限を確認し、安心・安全の確保に努め手洗い・うがいの徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	正面入り口のドアは、常時開放し、手作りの表札を掲げている。又両ユニットの玄関入り口にも手作りの表札や利用者作品を展示している。又ゆったりできるように木製のベンチや椅子を設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中はテレビや音楽の音を消してから、食事を提供している。昼食後は、思い思いの場所でくつろげるように支援を行っている居室へ戻られて昼寝をされる方には、強い光がはいらないようにカーテン等の環境整備を工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人が思い思いに過せる生活環境を提供している。廊下には、利用者様同士が座り談笑出来る長椅子を設置し、又談話室にはソファを置き利用者様同士がくつろげる場所を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好きな植物を置いたり、家族の写真や自分達が作った飾り物等を居室に設置する事で、利用者様の安心・安住の出来る生活の場を提供する工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	両ユニットの談話室、玄関内には空気清浄器が設置している。又個々の利用者様に合わせて、家族の協力の元、消臭剤や空気清浄器を使用し、悪臭防止に努めている。シーツ類の洗濯や布団干し等は定期的の実施している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっており、廊下の左右トイレには手すり等が設置している。車椅子利用の方について、扉の開閉が困難な方が多い為、長めののれん等を設置し、本人の機能を活かした環境作りに努めている。又車椅子の利用者に対しては、スタッフが誘導している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様一人一人の居室の入り口にはネームプレートを取り付け、又トイレやお風呂場には、場所を示すプレートを設置している。各個人のタンスに、文字が見やすいように品目の名前を書き、利用者様の残存能力を活かし、自分で衣類等の整理整頓ができるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に長椅子を設置し、玄関前にはプランターに季節毎に花を植え変えを行い、日常的に楽しめるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家族との協力体制・連携に取り組んでいる。
- ・防災については、年2回夜間を想定した避難訓練・通報訓練を実施している。(2ヶ月に1回は、消火訓練・避難訓練を実施している)又、近隣の住民へ防災訓練の参加を呼び掛けている。
- ・個々のレベルに応じた研修を実施し、相対的なレベル向上を図っている。